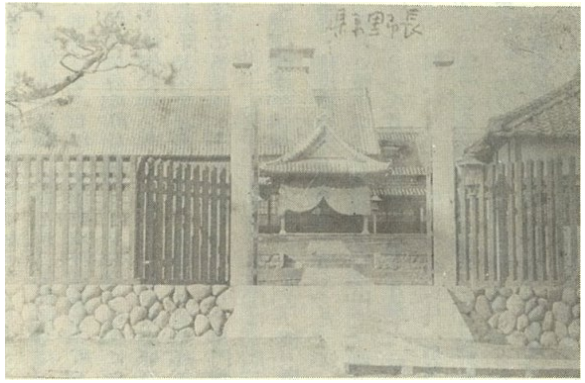
＊旧県庁の建物の移り変わりと附属長野中学校に受け継がれた門柱　～明治時代の写真や文献から繙く～

旧長野県庁は、1874(明治 7)年に現在の教育学部の地に建設されました。その庁舎を写した写真は主に 5 種類確認できます（写真①～⑤）。いずれも庁舎を正面（南側）から撮影したもので、石垣が組まれた高い地点までスロープになっていて、入り口には門があり、その左右には木柵が建てられています。県庁舎は和風建築に洋風の要素を取り入れたいわゆる擬洋風建築で、屋根に望楼（火の見櫓）が付けられています。ここまでの大きな特徴は 5 つの写真に共通しています。

しかし、いくつかの点で変化がみられます。それらを手掛かりに、写真に写っている５つの建物の年代を考えます。結論から先に述べると、年代は古い方から①・②・③・④・⑤の順番になります。では、奥に見える県庁舎や附属の建物、門の形状や色などを比較してみていきましょう。



写真①　旧長野県庁舎及び初代表門（明治 7 年～17 年）（出典：「旧藤井家資料」、『長野』第 86 号口絵）

写真②　旧長野県庁舎ならびに初代表門（明治 17 年～30 年代前半）（出典：長野市立博物館所蔵「旧藤井家資料」）

1874(明治 7)年

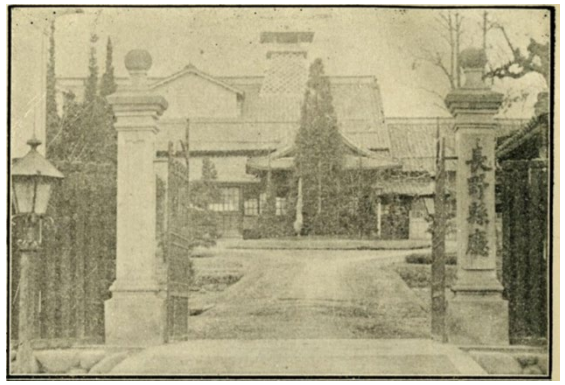
1884(明治 17)年

1893(明治 26)年

1900(明治 33)年

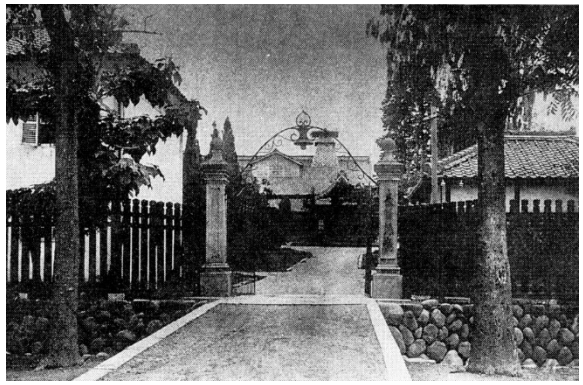
1904(明治 37)年

1908(明治 41)年



写真③　『善光寺案内』(明治 33 年版)に載る県庁舎及び２代表門（出典：信州ナレッジスクエア）

写真④　『長野繁盛記』(明治 37 年)に載る県庁舎及び２代表門（出典：信州ナレッジスクエア）



写真⑤　旧長野県庁舎ならびに２代表門（明治 41 年頃）（出典：県立歴史館・県史建築編写真）

◆旧県庁の建物について

「建物の移り変わり ー 明治前期」

①には望楼の付いた県庁舎と右側手前に建物（門番所）が見えますが、②ではそれに加え、左側手前に窓の付いた建物が、さらに門より手前には警備のためと思われる建物が建てられています。これからまず撮影順が①⇒②であることがわかります。

そして、門から庁舎までの通路をみると、①では途中に石垣と階段が付けられていますが、②以降ではそれらが無くなり、スロープ状に均されていることがわかります。また、①にはなかった「長野縣廳」の表札が②では掛けられています。

「警備のための建物」について

1884(明治 17)年に新たに設置されたもので、「表門巡査立番所」と呼ばれていました。(『県庁舎修繕之部（明治 17 年)』県立歴史館・明 17/G/5)。
これより、②が明治 17 年以降の撮影であることが分かります。

なお、1893(明治 26)年に刊行された『長野土産』という冊子（資料 A）には、②と同じ県庁の姿が描かれています。これより、②の写真が、明治 17 年を起点とし、明治 26 年以降のある時点までの状況を示していることが理解できます。

（資料 A)『長野土産』（明治 26 年）に描かれた長野県庁
（出典：国立国会図書館デジタルアーカイブ）

「建物の移り変わり ー 明治後期」

③を見ると、柵の内側の左右の建物に変化はありませんが、県庁舎の屋根に、当初の望楼に加え、左側に屋根から破風が付いた小屋根が突き出しています。これがいつ増築されたかは、②ではその部分が木で隠れていることから時期を決めることはできません。

そして、④では門柱にアーチ状の金具が取り付けられ、その中央に電灯状のものが下向きに付けられていることが分かります。これから、明治 33 年から 37 年の間に門柱に電灯をともす設備が付け加えられたことが分かります。さらに、⑤では、右側の門柱の脇に電柱と腕木に付けられた碍子があり、右の建物の軒にも碍子が付けられています。これより、⑤は明治 37 年以降、火災が発生して県庁舎が焼失した明治 41 年以前の時期の写真と推定できます。

（参考１）

教育学部には現在「赤レンガ館」と呼ばれ国の登録有形文化財に登録されている建物があります。これは 1895(明治 28)年建設の旧長野県庁書庫で、②の写真が撮影された頃のものであることがわかります。

信州大学の歴史遺産探訪－３　旧長野県庁 書籍庫

（参考１）教育学部赤レンガ館（旧長野県庁書庫　国登録有形文化財）

以上の写真や資料から建物の移り変わりをまとめると、①は県庁舎が建設された明治７年から明治 17 年以前のものであること、②は明治 17 年以降、③が撮影される明治 33 年以前のものと推定できます。そして、明治 33 年ころには③、明治 37 ころには④、⑤は明治 37 年から明治 41 年までの建物の様子をあらわしています。

このように、時が経つにつれ建物が増築されたりして変化していることが分かります。では、門柱はどのように変化したのか、今も附属長野中学校に伝わる門柱とはどのようなものなのでしょうか？

◆県庁舎の正門の移り変わり

次に門について見ると、①・②の写真の門は共通した形状で、色も白っぽい色をしています。それに対し、③では形状が大きく変わっています。

①・②は県庁舎創建時の表門で、庁舎建築に関する文書によると、門柱は高さ 12.4 尺（約 3.7m）で、仕様は柱下に沓石を据え、柱は槻（幅 1.4 尺と１尺）であったことがわかります。なお、写真には写っていませんが、扣柱と扣貫は杉、扉には「西洋風鉄物」を取り付けたことになっています。門は総体に白いペンキを塗ったとされています。（『県庁建築一件（明治 8 年 5 月）』長野県立歴史館・明 8/2A/16）

これに対し、写真③・④・⑤に写った表門は、①・②の門柱とは形状を異にしています。形状以外にも、左右の門柱を繋ぐように金具が取り付けられ、その中央に照明器具が取り付けられています。ガス灯なのか電灯なのかは判断できませんが、①・②の初代正門に替えて作られた２代目の表門と言えます。

この門柱の形を見てわかるように、初代表門に替えて建てられた旧県庁の２代目の表門が、師範学校、教育学部を通じて継承されてきたと記録（『信州大学教育学部附属長野中学校五十年誌』）され、現在、附属長野中学校に引き継がれています。なお、照明器具とそれを支えた金具は伝わっていません。（参考２）

附属長野中学校に受け継がれる門柱の年表

西暦(和暦)	門柱の所在
1893(明治 26)年 ～1900(明治 33)年	県庁の２代目表門として設置。　（この間、同じ場所）
1908(明治 41)年	県庁、師範学校が火災にて焼失するが、表門は残る。
1911(明治 44)年	長野県師範学校附属小学校（新築移転）の表門となる。
1941(昭和 18)年	長野師範学校の東門となる。
1947(昭和 22)年	長野師範学附属中学校の表門となる。
1963(昭和 38)年	附属中学校講堂兼体育館入口に移設。
1969(昭和 44)年	附属中学校のシシ沢川東に移設。
1979(昭和 54)年	附属長野中学校（長野市南堀に移転）の北門として移設。
2020(令和 2)年	附属長野中学校の正門後方へ移設。

（参考２）昭和 54 年、附属長野中学校の校舎移転に伴い、
門柱を移設（正門奥に移転する前の北口通用門）。
（令和 2 年 3 月まで）